

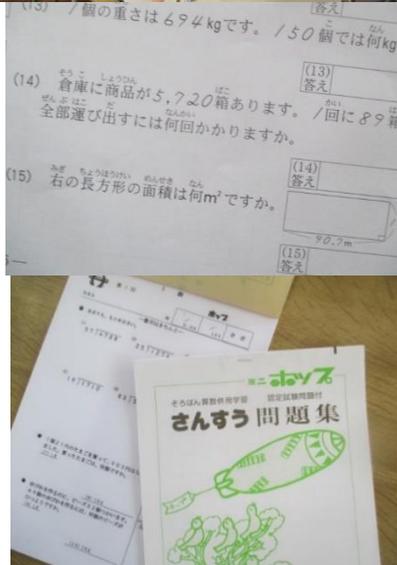
# 菰野珠算学園だより

## 9月号

## 2025年9月発行

応用計算に取り組んでいます。

3級以上になると、右写真にあるような「応用計算」が入ってきます。昔は、「元金」「年利率」「定価」「原価」……といった小学生にはなじみの薄い用語が問題の大部分を占め、多くの子どもたちが「応用計算」に取り組むことすらしていませんでした。最近では、応用問題が小学生にも取り組みやすい内容に改訂され、「40,000円持っています。1個74円の品物を456個買うと、残ったお金はいくらですか」(3級)「134,000円の商品を15%引きで買いました。消費税を含めるといくら支払いましたか。ただし消費税率は10%とする」(2級)「コーヒーと牛乳を32:17の割合で混ぜたコーヒー牛乳を1,176mlつくるとき、コーヒーは何ml必要ですか」(段位)といった問題が出題されています。他にも、速さの問題、最小公倍数・最大公約数の問題、面積の問題等、小学校の学習指導要領に記された内容からも出題がされるようになってきました。高学年にならないと、内容の理解が難しい問題もありますが、ある程度、問題の出題パターンが決まっていますので、子どもたちががんばって取り組んでいます。



1~3級は、伝票算、暗算、応用計算、3科目の中から2科目(段位は開法を含めた4科目から3科目)がそれぞれ合格点数以上あれば合格圏内となるので、「応用計算」に取り組むことで合格の可能性も高くなります。また、「算数ホップ」という学習教材と絡め、算数全般の理解を深め、珠算と算数学習を有機的に結びつけることで、より効果的な学習に結び付けることができるとも考えています。ご理解、ご了承をよろしくお願いいたします。

## 今年度(R7年度)の全国珠算連盟(全珠連)検定試験について

今年度の珠算検定試験は、9月を含め残り4回となります(11月、1月、3月)。受験の機会が限られてきますので、見通しをもって練習に励むようにしましょう。特に6年生は、入塾時の目標が達成できるように積極的に受験していただきますよう、ご家庭でも検討をお願いします。3月末で退塾される場合は、受験の機会が残り3回となります。



現在、珠算教室で行っている認定試験に、一度でも合格されたことのある子に対して珠算検定試験の受験申込書をお渡ししています。級段を練習している子には、毎月の月謝袋の中に、出席表とともに教室での認定試験の結果を入れています。検定試験当日は、いつもと環境が違い、緊張からか思うように力が発揮できず、思わぬ点数を取ってしまい、不合格となってしまっている子もいます。私自身(おじいちゃん先生)も、小学3年生で2級に合格したものの、小学4年生から6年生まで「あと10点、あと20点」というところで合格の壁に跳ね返され、1級に合格したのは小学6年生の最後の検定でした(なんと3年ほどかかりました)。本当に悔しかったことを今でも覚えています。しかし、こういった経験も振り返れば「集中力、忍耐力の育成につながったのかなあ」とも感じます。早く1級に見切りをつけ、段位の受験に切り替えていれば……という後悔もあるのですが……。

認定試験に合格していなくても、合格点近い点数が取れている子もいます。検定申込締切日から2週間ほど練習の日数もありますので、思い切って受験してみるのもいいかもしれません。そういった場合、受験申込書をお渡しします。「認定試験の結果」を参考に、珠算検定試験の受験について、ご家庭でも検討いただければと思います。

第430回試験日……4~6級 11月29日(土) 段位・1~3級 11月30日(日)

第431回試験日……4~6級 1月24日(土) 段位・1~3級 1月25日(日)

第432回試験日……4~6級 3月21日(土) 段位・1~3級 3月22日(日)